

# 作品のない展示室

## Galleries Without Artworks

2020年7月4日(土)～2020年8月27日(木) 開館時間：10:00～18:00

休館日：毎週月曜日（祝・休日の場合は開館、翌平日休館）

※8月10日(月・祝)は開館、翌8月11日(火)は休館

会場：世田谷美術館 1階展示室

主催：世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）

### ご挨拶

私たちは、これまでに経験したことのない大厄災の時を迎えています。

社会の隅々まで影響がおよぶなかで、世界中の美術館が、美術館本来の在り方を問い、展覧会等々の事業を見つめなおしています。予定していた展覧会も準備に支障が生じ、海外から作品を借用することがむずかしくなり、まったく将来の見通しが立てにくい状態です。

そのような現状を考慮して、このたび「作品のない展示室」を、虚心にご覧いただくことにいたしました。世田谷美術館は、四季折々にさまざまな表情をみせる都立砧公園のなかに位置しています。砧公園は、春には桜が咲きほこり、夏は大きな木陰が涼風をまねき、秋は多彩な木々の紅葉を楽しめ、冬には時に素晴らしい雪景色につつまれることもあります。

1986年に開館した世田谷美術館は、建築家・内井昭蔵（1933- 2002）によって設計されました。そして、内井昭蔵は次の3つのことを、美術館設計の上でのコンセプトとしました。

「生活空間としての美術館」、「オープンシステムとしての美術館」、「公園美術館としての美術館」。

こうしたコンセプトに基づき設計された世田谷美術館には多くの窓があり、また来館者を迎えるのも正面玄関だけではありません。周囲の環境と一体化しようとする、とても開放的な建物になっています。美術館は単に収集し、保存し、展示するだけではなく、音楽、演劇といったパフォーマンスなど、さまざまなジャンルの総合化の機能も重要視される施設です。

実際に世田谷美術館では、開館以来、音楽会やダンス公演をはじめ、さまざまなプログラムを開催し、このたびの「作品のない展示室」でも、ギャラリーに「建築と自然とパフォーマンス」と題したコーナーを設け、これまでの活動の一端をご紹介します。

窓を通して砧公園の緑ゆたかな風景を眺め、可能ならば、自らの心のなかに、これまで見てこられた数々の展覧会の一齣でも思い浮かべてくだされば幸いです。

## 世田谷美術館を設計した内井昭蔵（1933年- 2002年）

「健康とは〈生きているもの〉の価値基準である。人は病んだとき初めて健康の喜びや健康の価値を知るのであるが、このごろの建築をみていると、つくづく健康な建築の必要性を感じる。最近の建築はどこか病んでいるようだ。人間と建築とを同一に考えることはできないが、健康という価値基準を建築にあてはめることはできると思う」。これは、内井昭蔵が著した『健康な建築 イマジネイティブな生活空間を求めて』の冒頭の一節です。彼の建築家としての思想を端的に示し、その造形が生成されていく根源にふれるように思える言葉です。

明治期、ニコライ堂の名で知られるニコライ師に仕え、日本における正教会の建築を手がけた祖父・河村伊蔵、そして建築家・内井進を父にもつ内井昭蔵は、建築家として1967年に独立し、2002年に急逝するまでの35年間、多くの作品を手がけつつ、京都大学などで後進の指導にもあたり、日本の建築界に多大な貢献を果たしました。

初期の代表作《桜台コートビレジ》（1970）をはじめ、《身延山久遠寺宝蔵》（1976）、《世田谷美術館》（1985）、《国際日本文化センター》（1991）、《御所》（1993）、《大分市美術館》（1998）などの優れた設計は国内外から高い評価を得ました。

内井昭蔵は建築に合理性を求めただけでなく、自然の秩序を意識し、そこから生じてくる装飾を丹念に建築にとりこみました。建築が人間にとって親しみやすい存在であることを思い、人間と建築が馴染みあう空間を築くことを、心から大切にしたい建築家であったといえましょう。

### 略歴

1933年、東京都世田谷区生まれ。1956年、早稲田大学理工学部建築学科卒業。  
1958年、早稲田大学大学院修士課程を修了し、菊竹清訓建築設計事務所に入所。  
1967年に独立し、内井昭蔵建築設計事務所を設立し、2002年に急逝するまでに手掛けた設計は249件にのぼる。  
1993年からは京都大学教授（～1996）となり、1996年からは滋賀県立大学教授（～2002）をつとめた。

### 主な受賞歴

1971年：《桜台コートビレジ》（1970）／第22回日本建築学会賞  
1978年：《東京YMCA野辺山高原センター》（1976）／第3回吉田五十八賞  
1980年：《身延山久遠寺宝蔵》（1976）／第24回AIAレイノルズ賞  
1987年：世田谷区特別文化功労賞  
1989年：《世田谷美術館》（1986）／第45回日本芸術院賞  
2000年：京都市文化功労者表彰  
2001年：《大分市立美術館》（1998）／第3回大分市建築大賞

## 世田谷美術館 建築概要

- 名称： 世田谷区立世田谷美術館
- 開館： 1986年3月30日
- 設計： 内井昭蔵建築設計事務所
- 施工： 本体工事：清水建設・村本建設・儘田組共同企業体  
造園工事：芝茂造園建設、蛭田植物園
- 工期： 1984年3月31日から1985年11月15日／外溝工事は1986年3月20日
- 敷地面積： 19,000 m<sup>2</sup>／都立砧公園 38万m<sup>2</sup>の一部を無償借用
- 建築面積： 5,240 m<sup>2</sup>／構造＝鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階建、塔屋1階建
- 延床面積： 8,577 m<sup>2</sup>
- 1階：

エントランス・ホール：	200 m <sup>2</sup>
1階展示室：	1,025 m <sup>2</sup>
区民ギャラリー（2室）：	320 m <sup>2</sup>
講堂：	180 m <sup>2</sup>
ミュージアムショップ：	45 m <sup>2</sup>
一時保管庫・荷解室：	518 m <sup>2</sup>
レストラン：	558.86 m <sup>2</sup>
事務室：	355 m <sup>2</sup>
- 2階：

2階展示室：	783 m <sup>2</sup>
収蔵庫：	645 m <sup>2</sup>
講義室：	50 m <sup>2</sup>
アトライブラリー：	100 m <sup>2</sup>
- 地階：

創作室（4室）：	294 m <sup>2</sup>
カフェ：	76.69 m <sup>2</sup>
機械室：	812 m <sup>2</sup>

## 特集 建築と自然とパフォーマンス

開館以来30数年、当館はユニークな建築空間と館外の自然環境を活かしつつ、あるいはそのときどきの展覧会に合わせ、音楽やダンスなどのパフォーマンスを数多く行ってきました。およそ400本に迫るそれらのパフォーマンスから46本を選び、記録写真や映像、チラシなどのアーカイブ資料をとおしてご紹介します。

出演者等の種別／\*＝振付・構成・演出・出演 \*\*＝振付・構成・演出 無印＝出演 出品資料の種別／●＝写真 ○＝映像 ◆＝印刷物 ◇＝印刷物（複数年分より抜粋）

### 1986年 始まりのエネルギー

no.	振付・構成・演出・出演など	公演名	開催年月日	資料の種別
01	キム・ドクスほか	サムルノリ	1986年5月3日・4日	●◆
02	田中浜	舞踏＋景観装置	1986年5月9日・10日・11日	●◆
03	ラミン・コンテ、高田みどり	ラミン・コンテ	1986年5月24日・25日	●◆
04	ルイ＝セザール・エワンデほか	エワンデアフリカン・パーカッション・アンサンブル	1986年10月19日	●◆
05	J・A・シーザー**、演劇実験室・万有引力	顔の小道具	1986年11月12日-17日	◆

### 美術館の内と外で

no.	振付・構成・演出・出演など	公演名	開催年月日	資料の種別
06	小川典子〔第1回〕	ブロムナード・コンサート	1987年1月-現在	●◇
08	ドウドウ・ニジャエ・ローズ	ドウドウ・ニジャエ・ローズ	1987年6月20日[および1989年]	●◇
07	牧阿佐美バレエ団	サマーナイトバレエ	1987年8月-98年8月	●◇
09	如月小春**、演劇集団NOISE	NIPPON・CHA! CHA! CHA!	1988年5月11日-16日	◆
10	ドラマーズ・オブ・ブルンジ	ドラマーズ・オブ・ブルンジ	1988年8月26日[および89・91年]	●◇
11	スアール・アゲン	スアール・アゲン “ジェゴグ”	1991年8月27日	●◆
	[参考資料]	現代音楽講座 20世紀の音楽・その1	1993年9月-10月	◆
	[参考資料]	フィルム&ビデオ 没後10年 寺山修司特集	1993年1月-2月	◆
	[参考資料]	フィルム&ビデオ ジョン・ケージ特集	1993年9月	◆
12	巻上公一ほか	クレズマー・イン・ザ・ジャパニーズマインド	1996年8月21日	●◆
13	藤枝守ほか	越境する音楽 植物譚詩～作曲家・藤枝守の現在	1996年9月28日	◆
14	ジョエル・レアンドル、沢井一恵	越境する音楽 Between the strings	1996年10月12日	◆
15	高橋悠治ほか	越境する音楽 音楽を身に着ける	1996年10月26日・27日	◆
16	APE（楠原竜也ほか）	APERil fool? エイプリル・フルの美術館	2006年4月1日	●
17	シカラムータ（大熊ワタルほか）	シカラムータ〈生蟬〉演奏会	2006年9月29日	●◆
18	東野祥子*、カジワラトシオ、齊藤洋平	東野祥子ソロダンス I am aroused...inside woman	2010年7月31日・8月1日	●◆
19	ボヴェ太郎*、原摩利彦	微か	2012年4月6日・7日・8日	●◆
20	日渡奈那、笠井友紀、上村なおか	ナイトシェード かごの中の鳥	2019年4月20日・21日	●

### 展覧会を起点に

no.	振付・構成・演出・出演など	公演名	開催年月日	資料の種別
21	中村雀右衛門	シュナーベルVS歌舞伎	1989年9月15日	◆
22	蔡國強**、王景賢（脚本）、董自恭ほか	蔡國強 流動インスタレーション「不老不死薬」	1994年9月20日-10月10日	◆
23	YAZ-KAZIほか	アフリカン・ディスコ	1995年10月6日	◆
24	畠中恵子、高橋悠治、石川高	スペースコラボレーション 華	2001年10月27日	●◆
25	土取利行	スペースコラボレーション 蒼風の木立によせて	2001年11月18日	◆
26	高橋悠治	ミニ・ライブ＝武満徹「遮られない休息」・「閉じた眼」	2005年2月19日	◆
27	新鋪美佳*／垣内友香里*／鈴木ユキオ* ほか	INSIDE/OUT 建築の時間・ダンスの瞬間	2009年12月19日	●◆
28	大山平一郎ほか	美術と音楽の対話〔第1回〕ルソーを讀めるタベ	2013年9月28日[-2017年]	◇
29	森山開次、多井智紀	ダンス・パフォーマンス ヒトとキとキと	2016年6月4日	●
30	笠井観*、笠井禮示、上村なおか、浅見裕子ほか	オイリュトミー&舞踏 美紗姫物語	2016年10月14日・15日	●◆
31	ルカ・ヴェジェッティ**、鈴木ユキオ、竹内英明	風が吹くかぎりずっとブルーノ・ムナーリのために	2018年11月30日・12月1日	●○◆

### 建築との対話 シリーズ「トランス／エントランス」

no.	振付・構成・演出・出演など	公演名	開催年月日	資料の種別
31	笠井瑞丈*	vol.1 笠井瑞丈ソロダンス ジギーに憧れて	2005年5月8日	●
32	柏木陽*、明神慈、池田邦太郎	vol.2 いちんちじゅう えんげき	2005年12月11日	●
33	生形三郎	vol.3 沈める晩景	2006年11月11日	●◆
34	宇宙人びつきー、宇宙人おーちゃん	vol.4 倍音mu ALIENの宇宙音楽旅行	2007年8月11日	●
35	上村なおか、藤田佐和子、ロバン・デュブイ	vol.5 夜中の森のまよい道	2007年11月11日	●◆
36	島地保武、熊地勇太	vol.6 YASUTAKE SHIMAJI 2 FUNK EDITION	2008年8月10日	◆
37	ボヴェ太郎*、原摩利彦	vol.7 ボヴェ太郎 in statu nascendi	2009年3月7日	●
38	あおいさちこ、けいこ山▲、酒井徹ほか	vol.8 にあいこーるのじじょう 循環プロジェクト公演	2009年5月28日	●
39	神村恵*、振子びじん、福留麻里、小林耕平	vol.9 神村恵カンパニー “385日”	2010年3月25日	●◆
40	ほうほう堂（新鋪美佳、福留麻里）*	vol.10 ほうほう堂@入口	2011年3月3日	●
41	岩淵貞太*	vol.11 岩淵貞太 錆び	2011年5月14日	●
42	野村誠、砂連尾理、上田謙太郎、杉本文	vol.12 野村誠の老人ホームREMIX#2 復興ダンゴ	2014年3月1日・2日	●
43	多田淳之介**、伊東歌織、福田毅	vol.13 ENTRANCE	2015年1月8日・9日	●◆
44	福留麻里*	vol.14 そこで眠る、これを起こす、ここに起こされる	2015年12月22日・23日	●
45	鈴木ユキオ*、赤木はるか	vol.15 鈴木ユキオ イン・ピジブル	2017年3月9日・10日	●
46	古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸	vol.16 朗読劇 銀河鉄道の夜	2018年9月29日	●◆